

立候補意思表明書

殿塚裕紀

JHF は大きな岐路に立たされています。

フライヤー登録人数は 2013 年 4 月現在 8,500 名と、ピーク時の 4 分の 1 まで減少しています。ここ 10 年では毎年約 1,000 名のペースで減り続けています。フライヤーを世代別に見ると、30 代以下が約 20%、40 代が約 25%、50 代が約 30%、60 代以上が約 25%です。高齢のフライヤーの方も多く、フライトから離れていく方も今後増えていくと予想されます。何の対策も打たなければ、今後も減り続けていく事でしょう。フライヤー登録による収支が減少することで、JHF の運営は圧迫されていきます。会費を値上げすることにより一時的には持ち直すのだと予想しますが、安定した運営状態を続ける事は難しくなるでしょう。また、インストラクターの平均年齢は 50 歳前半。若手のインストラクターが育たず、世代交代に悩むスクールも出てきています。啓蒙活動の重要な役割を持つスクールが衰退すれば、必然的に愛好者数は減少するでしょう。

以上の要因により、このままでは 5 年 10 年後の業界の未来は明るいものではないと危惧しております。

公益社団法人として健全な運営体制を持ち続けるためには、何らかの手を打たなければなりません。特にライセンス制度と第三者賠償責任保険を保持していくことが大切です。ではどんな事をしていくのか。まず全国のスクール、ならびにクラブエリアが啓蒙活動しやすい環境を整える事が重要です。

そのためには認知度を上げることも必要になります。「空を飛ぶ手段として、ハンググライダー、パラグライダーがあるよ。」と広く知って貰う事が大切なのです。

理想は掲げたものの、微力な私にどこまでの事が出来るかは分かりません。それでも現状を打破するために、出来る限りの事に挑戦していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。